

# AJ織機 48台増設

## インクジェットも拡大

約1,200台の織機を保有する日本最大の機業、丸井織物（石川県中能登町）が、積極的に設備増強を図っている。12月中にエアジェット（AJ）織機を48台増設するほか、例年同様にウオータージェット織機の更新を実施し、約20台を入れ替えた。

AJ織機は48台の増設により、309台体制に拡大する。宮本米藏常務は「AJ織機による商品開発が進み、引き合いが活発化していることに対応した」と語る。

織機以外でもTシャツやスマートカバーの電子商取引（EC）に活用する「ノト・クオリティー」は、海外市場開拓を本格化させる。その一環として、19年1月、米国二

作所の「ホールガーメント」横編み機も11月に試験機として導入。Tシャツへの活用を目指す。2018年12月期の設備関連投資額は8、9億円に達する。

同社の18年12月期決算は、前期比10%強の増収は、前期比10%強の増収の見通し。この数年増強で織布スペースは満杯となり、売上高は前期並みの計画で臨む。

来期も19年1~3月まで織布スペースは満杯と目先は好調ながら、4月以来の荷動きは慎重にみており、売上高は前期並みの計画で臨む。

弱の伸びとなる見通しだが、特にノト・クオリティーは50%増と大きく伸びた。先日、出展した「プレミアム・テキスタイル・ジャパン（PTJ）」で

## 海外への生地自販本格化 シリーズコンセプト変更



自販する生地「ノト・クオリティー」のシリーズコンセプトを変更しPTJで披露した

丸井織物は来期から、「ノト・クオリティー」ブランドによる生地の自販売で海外市場開拓を本格化させる。その一環として、19年1月、米国二台増強して25台体制に拡大したほか、島精機製

弱の伸びとなる見通しだが、特にノト・クオリティーは50%増と大きく伸びた。白生地を展示し、シリーズコンセプトを変更。織物そのものが持つ機能ごとに構成し直し、「永久軽量」「永久速乾」「永久伸縮」「永久防風」など」と言う。

はノト・クオリティーのいう日本語でアピールした。白生地を展示し、織物の特性のみを訴求する手法は好評で「例年の1~4倍の来場者があつた」と言う。

ノト・クオリティーは、国内60%、海外40%の構成比率を想定。将来的には海外75%にしたいとの意向を持つ。

生機も含めたテキスタイルの自販は今期、20%